

学校名	山梨市立日下部小学校	教科名	算数 社会
研究主題	「確かな学力」を身につけさせる学習指導の研究 ～「学級力」を高め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して～		

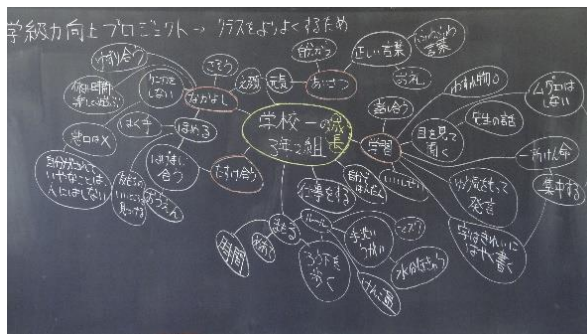
1. 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

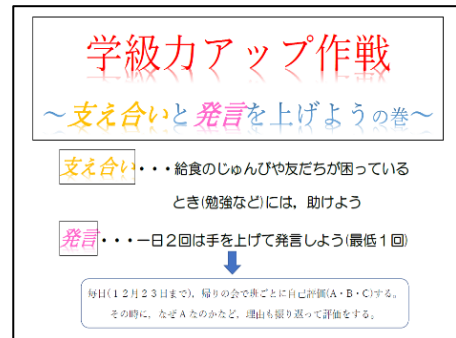
- ①「学級力向上プロジェクト(※)」の実践の継続と、授業との関連付け
- ②指導と評価の一体化の継続した検討や実践と、算数科から各教科への実践の広がり
- ③学校と家庭が連携した家庭学習の取組

(2) 具体的な研究活動

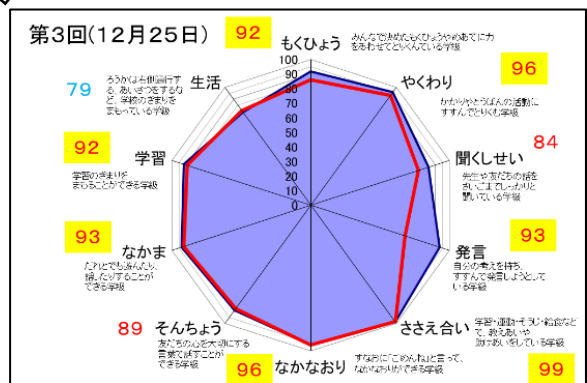
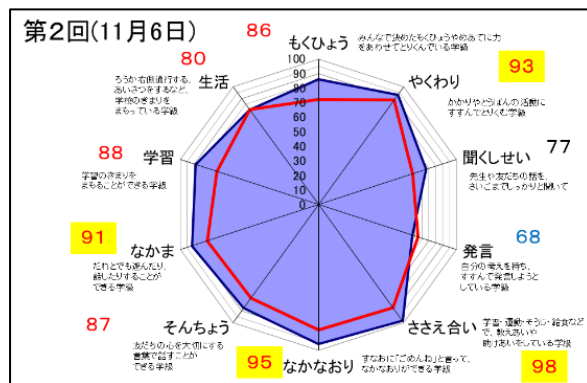
- ①「学級力向上プロジェクト」の実践の継続と、授業との関連付け
 - ・「学級力向上プロジェクト」の実施方法について学習会を開いた。1年間の取組について報告会を行い、意見交換をした。また、授業との関わりについて研究授業等で検証を行った。



「ビッグカルタ」で、いいクラス・目指したいクラスについての話し合いを行った。



「スマイルアクション」として、具体的な活動を決めた。授業への取組も決めて、授業と関わりをもたせた。

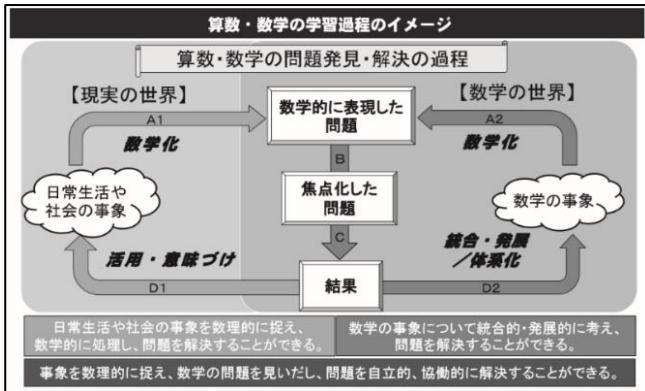


年間数回「学級力アンケート」を実施し、学級の状態をレーダーチャートに可視化した。レーダーチャートをもとに「スマイルアクション」を変更していった。

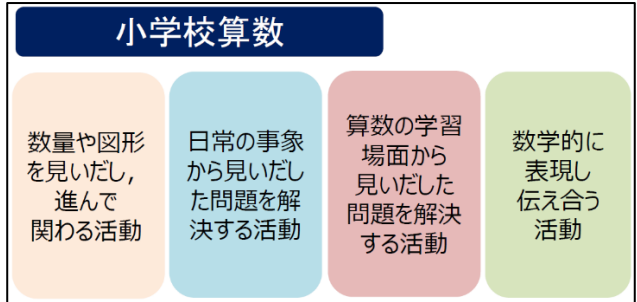
(※) 子どもたちが学級の分析、改善に向けて自律的に取り組む、学級経営の手法
(参考資料:「学級力向上プロジェクト①」 田中博之編 他)

②指導と評価の一体化の継続した検討や実践と、算数科から各教科への実践の広がり

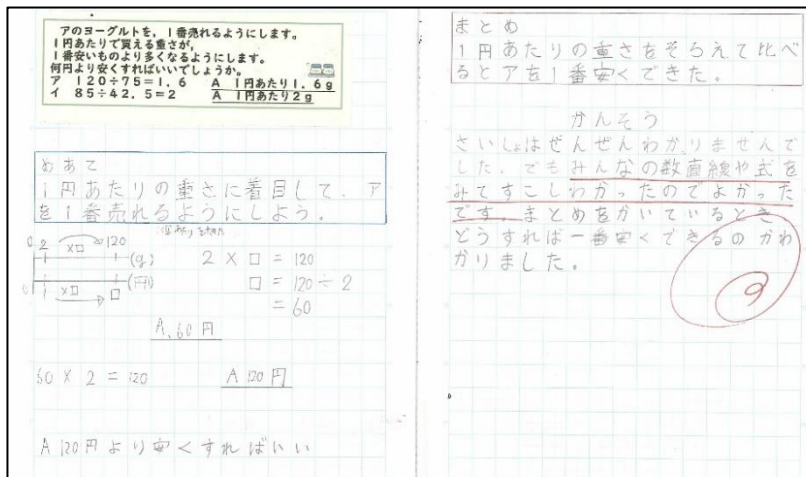
- ・「課題把握→自力解決→相互解決→振り返り」の授業モデルを基にした実践を継続しながら、算数科から各教科に実践を広げた(研究授業・一実践)。
- ・問いの明確化や数学的活動の充実を意識した授業づくりを行った。



学習過程のイメージ
 (「小学校学習指導要領解説 算数編」 P8)



数学的活動について
 (NITS HP「小学校学習指導要領 算数科の改訂のポイント」)



「課題把握→自力解決→相互解決→振り返り」の学習過程を基にした授業づくり
 児童のノートの様子 (5年算数)

家庭向けのたより

日下部の学び

家庭学習の取り組みについて

日頃より、日下部小学校の教育にご理解、ご協力いただき感謝します。2学期が始まり、動向にも異なっているから、新しい学習スタイルで学校生活を過ごしているところです。

さて、2学期より、2年生以上の学年において、家庭学習の取り組みを全校教員の共通理解の元、進めていくことになりました。家庭での学習になりますので、保護者の方に協力いただくこともございます。以下の通り、ご説明させていただきます。

なお、1年生の自主学習については、段階を踏んで、少しずつ取り組んでいくようにします。ご理解おまかせください。

【家庭学習とは】
 宿題や自主学習等、家庭で行う学習を指します。子どもたちの学習意欲の向上、家庭での学習習慣の定着、学力の向上をねらいとして、取り組みます。

【日下部小で重点的にとりくむ家庭学習の内容】
宿題・10分読書・自主学習の3点とします。
 ○宿題：教師が書的に内容を指定し、行わせる学習。
 ○10分読書：子どもの興味・関心に基づいて10分以上読書を読む学習。
 ○自主学習(自学)：子どもが自分で内容を決めて行う学習。

【八のつく日との関連】
 チェックカードの内容を工夫し、以下の目的で取り組んでいきます。
 ○家庭学習を振り返るため。
 ○家庭学習の状況の把握のため。
 ○取り組み状況の可視化のため。

【その他】
 ・学年×10分の時間指定は、自身の到達状況の把握のために活用していただきます。
 ・**5年生になるまで、1時間以上家庭学習できる(レベル6に到達する)ことを目標に行います。**
 ・**2・3年生が、レベル6以上を目指してもOKです!** 学年のうちに習慣化することが、大切ですよ。

【自主学習の具体的な取り組み方法】
 ・自主学習の九つや直し、チェック等は、自分やおうちの人が行う。間違っていたら、直す。
 ・自主学習ノートの掲載を指定するかどうかについては、学年ごとに決める。ノート次の問題集等での提出についても学年ごとに決める。
 ・一日に取り進む上題についても、学年ごとに決める。
 ・児童の豊かづけの部分については、学年ごとに工夫して行う。

◎家庭学習のレベル◎

1日の学習時間	
10分未満～20分未満	レベル1
20分～30分未満	レベル2
30分～40分未満	レベル3
40分～50分未満	レベル4
50分～60分未満	レベル5
60分～70分未満	レベル6
70分～80分未満	レベル7
80分以上～100分未満	レベル8
100分以上～120分未満	レベル9
120分以上	レベル10

※上より、家庭学習のレベルも達成状況に応じて変わります。

③学校と家庭が連携した家庭学習の取組

- 家庭学習の内容や取組方法を検討し、自主学習へのフォローを全校体制で行った。
- たより「日下部の学び」を発行し(全23号)、各家庭へ啓発を図った。

(3) コロナ禍における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組

- 学習内容を確実に理解し、考える力を育成するため、ICTを活用した教材づくりを行った。
- 児童の思考を広げたり深めたりするため、教師対児童の対話を軸に、ポイントを絞った「問い返し発問」を意識した授業実践を行った。

2. 研究の成果と課題 (○成果 ●課題)


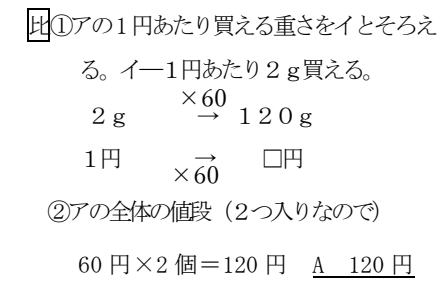
- 日々の実践の中から、学級力と授業が密接に関連しているということを感じることができた。学級力と授業を両輪としてとらえ、今後も実践を重ねていく必要がある。
- 「スマイルアクション」に、授業に向かう姿勢を意識した取組を設定したことで、授業での発言等、児童に変容が見られた。
- 「課題把握→自力解決→相互解決→振り返り」の授業モデルが算数科だけでなく、算数以外の各教科にも当てはめることができることを確認できた。
- 家庭学習の取組内容や方法を全校で統一したことで、各家庭に協力をお願いしやすくなった。
- 家庭学習の取組について、まだ十分に連携が図られている状況ではないので、今後も取組を継続しながら、各家庭に周知していくことが必要である。
- 各教科の「見方・考え方」を働かせた深い学びについては、今後も実践を重ねていく必要がある。

3. 研究授業の概要

【算数】

- (1) 単元名 単位量あたりの大きさ (第5学年)
- (2) 本時の目標 単位量あたりの大きさの学習の内容を適切に活用して、事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決することができる。 態度・思判表 C(2)イ
- (3) 本時の評価規準 (思) 日常生活の問題を単位量あたりの大きさを活用して解決している。
(主) 図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的にとらえ粘り強く考えようとしている。

(4) 授業の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	備考
課題把握 11分	1. 前時を振り返る。 1個あたりや1gあたりで比べても、アのヨーグルトが1番高かったことを振り返る。	・前時の学習を振り返り、1個あたりや1gあたりで比べても、アのヨーグルトが1番高かったことを思い出す。	
	2. 本時の課題を確認する。 アのヨーグルトを、1番売れるようにします。1円あたりで買える重さが、1番安いものより多くなるようにします。何円より安くすばまいいでしょうか。	・売る側に立って考えることを確認する。	提示用の 絵 ノート 電卓
	3. 家庭学習の内容の確認をする。 それぞれのヨーグルトが1円あたり何gずつ買えるか確認する。 1円あたりで1番多くのヨーグルトが買えるのはどれでしょう。 アの1個あたりの重さ・・・120g 75円 イの1個あたりの重さ・・・85g 42.5円 ウの1個あたりの重さ・・・70g 40円	・本時の課題を解決するために、家庭学習の内容が必要となる。目的意識をもって確認する。 ・1円あたりで比べると、ヨーグルトが多く買えるものが安いことを確認する。 ・1円あたりで買える量で比べる。 ア-1.6g イ-2g ウ-1.75g	タブレット 大型テレビ パソコン
	ア $120 \div 75 = 1.6$ <u>A 1円あたり1.6g</u> イ $85 \div 42.5 = 2$ <u>A 1円あたり2g</u> ウ $70 \div 40 = 1.75$ <u>A 1円あたり1.75g</u> 1円あたりで2g買えるイのヨーグルトが一番安い。 4. めあてを把握する。	・1円あたりで一番多く買えるイのヨーグルトが安い。 ・イ→ウ→アの順(安い順) ・児童とめあてを考えるようにする。	提示用の 絵
めあて 1円あたりの重さに着目して、アを1番売れるようにしよう。			
自力解決 ・ 相互解決 28分	5. 問題解決に向けて見通しをもつ。 イが一番安い(1円あたり2g買える)→アも1円あたり2g買えるようにする。→アの1個分の値段を出す。→2個入りなので×2をしてアのヨーグルト全体の値段を出す。 6. 課題について自分で考え、求め方を図や式、言葉で考える。 7. 考えを発表し合う。 考え①1円あたり買える重さをイにそろえる。  ① アの1円あたり買える重さをイとそろえる。 $2 \times \square = 120$ $\square = 120 \div 2$ $= 60$ ② アの全体の値段(2つ入りなので) $60 \text{円} \times 2 \text{個} = 120 \text{円}$ <u>A 120円</u>	・自力解決に向けて見通しをもてるようにする。(PPの続きを見せる) ・数理的に処理できる条件(比較対象の条件をそろえること)に気づかせる。 ・相互解決で取り上げる児童を確認しておく。 ・児童のノートをスクリーンに映し出す。 考え②1円あたり買える重さをイにそろえる。  ②アの全体の値段(2つ入りなので) $60 \text{円} \times 2 \text{個} = 120 \text{円}$ <u>A 120円</u>	パソコン 大型テレビ タブレット ※態度・ 思判表 【観察・ ノート】
振り返り 6分	8. 本時の学習をまとめる。 1円あたりの重さでそろえて比べると、アを一番売れるようにできた。 単位量あたりの大きさをそろえると、2つの数量を比べることができる。 9. 学習感想を書く。	・児童の言葉でまとめるようにする。 ・まとめを一般化する。(掲示) ・今回の授業で分かったことやできるようになったことなども書かせる。	

【見通しと振り返りの実際から見える主体的な学び】

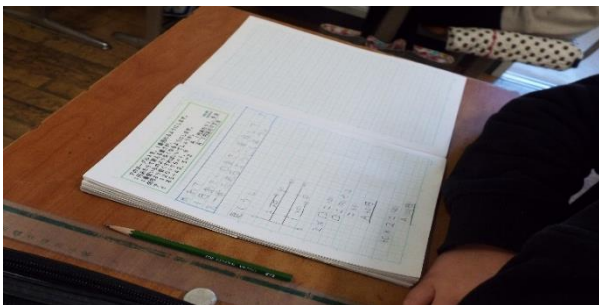
- 自力解決できず手が止まってしまった児童が、数直線や式を自分でノートに記述し、考える見通しをもてるようになった。
- 問われていることに対し、「自分が今どこまでが解決できているか」を確認しながら問題を解くことができた。
- ノートを振り返っていた。(既習へ戻る)
→ 自分の学びが繋がっていることへの意識
ねばり強さ

- 難しい課題に対してチャレンジしたことや、「学級みんなで立ち向かえた」意義や価値を高めた。

【対話の工夫】

- 自分の考えと他者の考えを比較・検討しながら聞き、解決への糸口をつかむことができた。
- 友達に分かるように記述しようとする意識の向上 → 思考力・表現力につながる

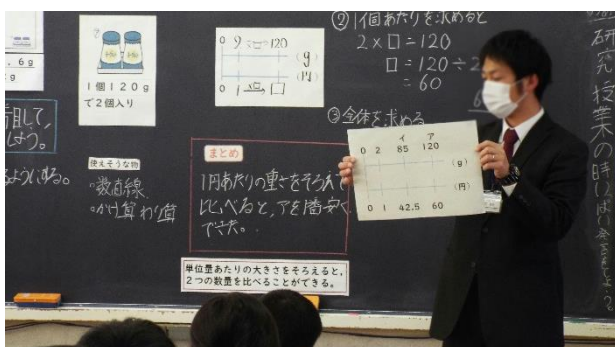
- 教師との対話の中で、複雑な問題の構造を単純化していくことができた。



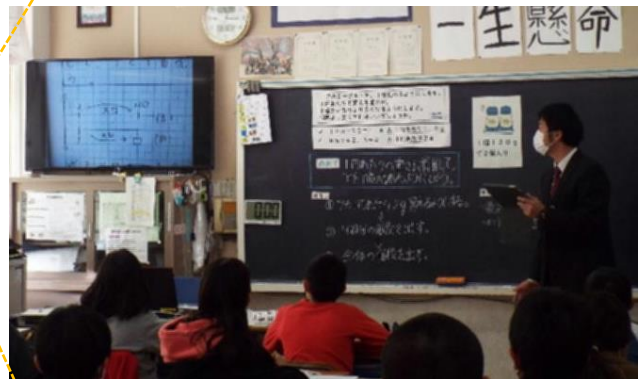
【深い学び】

- 数直線が立式する上で根拠になっていることへの気づきが生じた → 学ぶことへの有用感

- 授業終了間近にもかかわらず、また解き直している児童の姿が見られた → 解決方法への興味



- ・ねらいに沿ったノートを提示する方法として、タブレットや大型モニターを活用する。
- ・順序立てて整理するために、ICTと板書の有効性を生かしながら解決までの道筋を段階的に提示する。
- ・分かったことやできるようになったこと、難しかったことを振り返る場面を設定する。



- ・数直線や式について、記述した児童ではなく他の児童に説明させることで、言語化し表現したいことをアウトプットさせる。
- ・記述した事柄を見合う活動は有効である。

- ・「何に着目したらよいか？」を繰り返し問うことを通して、「見方・考え方」の焦点を絞る。

- ・単元を通したり他の単元と関連づけて考えたりする中で、日々の継続した指導は大切である。

- ・(最後に教師が) 児童の中から出てこなかった解法を提示する。

〈家庭学習との有機的な結びつき〉

習得から探究につなげる活用の授業を実現させるためには、家庭学習の充実が必要不可欠であった。本時に向けては、家庭での学習成果を授業で活用し、また授業で学んだ知識やスキルを家庭でも活用するような双方向的な学びの基盤を構築していくことができた。

【社会】

(1) 単元名 火事からまちを守る (第3学年)

(2) 本時の目標 地域の消防施設に着目して、消防団などの活動から、地域の人たちもまちを守っていることを捉えることができるようにする。 知技 2 (3) ア

(3) 本時の評価規準 (知) 地域の消防施設について、地図を読み取って予想したり、消防団の活動などを調べたりして、地域の人たちも火事からまちを守っていることを理解できている。

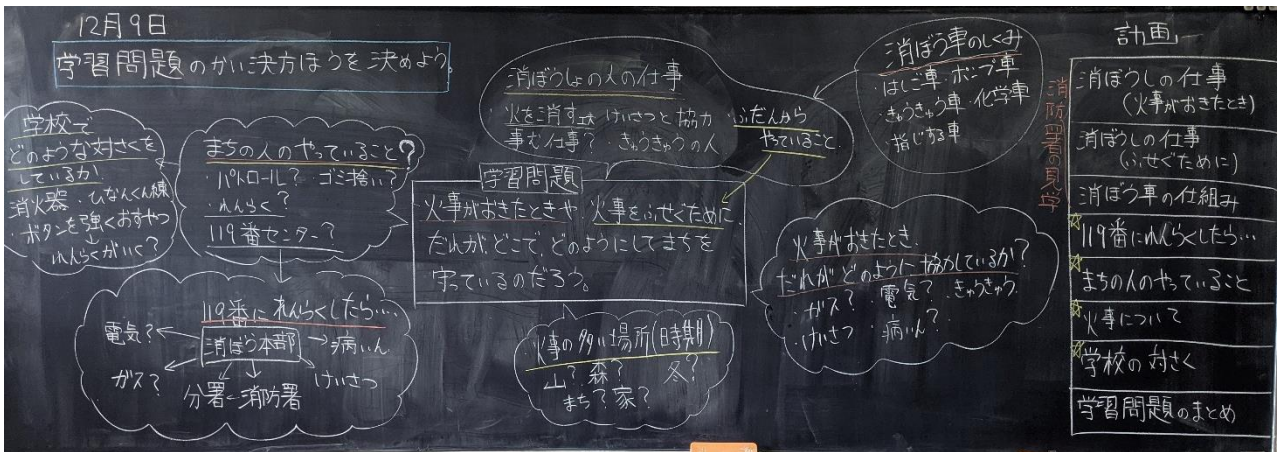
(4) 授業の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	備考
課題把握 8分	1. 本時の学習課題を確認する。	・単元の最初に立てた学習問題を基に作った学習課題を提示し、本時の課題を確認できるようにする。	
	わたしたちの地いきでは、だれがどのようにして火事からまちを守っているのだろう。		
課題の解決 27分	2. 地図を見て、丸印が何を表しているか考える。	・山梨消防署・牧丘分署の位置を地図上で振り返った後、48の消防団詰所を表す丸印を合わせた地図を見せ、それが何を表しているのかを予想できるようにする。 ・消防団詰所のシャッターの開いた写真を見せることで、詰所がどのようなところかを理解できるようにする。	※地図・写真 ◇ワークシート
	3. 消防団詰所の中を見て、誰がどのように使っているのかを予想をして、ワークシートに書き込み、話し合う。	・「火事からまちを守るために、誰がこの道具や設備を使って、どのような活動をしているのか」という視点で予想を書けるようにする。 ・友だちの考えを知るために、予想をペアで話し合っただけで交流をし、その後全体で予想を共有していく。	
	4. 消防団にはどのような人が所属しているのかを考える。	・消防団に所属しているクラスの保護者の自己紹介動画や写真を提示し、どのような職業の人でどこに住んでいる人なのか、理解できるようにする。 ・その後、日下部分団第4部に所属している人の資料を提示し、消防団に所属している人が、地域の人たちであることを理解できるようにする。	※動画と写真 ※資料
	5. 消防団の人たちがどのような活動をしているのかを映像から調べる。	・映像を見る視点を確認し、映像を見るようにさせ、その後、どのような活動をしていたのかを、全体で共有していく。 →「火事からまちを守るために消防署とも協力して活動している」ということを黒板にまとめ、火事からまちを守る仕組みを理解できるようにする。	※動画 ◇ワークシート
	6. 消防団以外の地域での活動は何かあるのかを考える。	・地域での防災訓練の様子を提示して、活動している写真から消防団以外の地域の人々も活動していることに気づけるようにする。 →「地域の人たちも協力して火事からまちを守っている」ということを黒板にまとめ、火事からまちを守る仕組みを理解できるようにする。	※写真
	まとめ 10分	7. 本時のまとめをする。	・児童の発言から、消防団や地域の人たちが火事からまちを守るために協力して活動をしていることをまとめていく。
消防団や地域に住んでいる人たちが協力しながら訓練や見回りなどをして、火事からまちを守っている。			
		・OPPシートに、本時の学習課題に対するこたえを自分の言葉で書く場面を設けることで、記述したことを単元末の学習問題の解決に生かせるようにする。	(発言・OPPシート・ワークシート)

【見通しと振り返り】

- 学習計画を単元のはじめに児童と考えたため、何を学ぶかが児童の中で明確になっていた。
- 本時の学習課題に基づいた振り返りを書くことができた。
- OPPシートを活用することで、既習事項が明確になり、新たな疑問や本時で学ぶことに気付くなど、見通しをもつことができた。

- ・「単元構造図」と「指導と評価の計画」を作成し、単元全体を通して何をどのように学ぶか、それをどのように評価するのかを明確にする。
- ・振り返りの視点を教室に掲示している。
- ・振り返りの評価の観点を設定し、評価したものを児童へフィードバックする。
- ・指導者が何を書かせるかを明確にもつことが大切。



【対話の工夫】

- 問い返し発問をすることで、児童の発言をつなげ、問題解決に向かっていった。
- OPPシートを友達同士で見合い、何を学んだかを交流することができた。

- ・何を問い返すのか、問い返しの内容の吟味が必要。
- ・根拠や背景を問う発問をする。
- ・友達の振り返りを見て共有することで、自然と対話が生まれ、問題解決に必要な視点に気付けるようにする。

【児童の深い学び】

- 消防団や地域など身近なもので資料を構成したことで、実感を持った学習となった。
- 資料から児童の気付きや疑問が生まれ、深い学びにつながっていた。
- OPPシートを活用することで、単元全体を通しての深い学びとなり、児童の意欲の向上にもつながっていた。

- 〈ICTの活用〉
- ・映像を見る際、見る視点を示し、目的をもって見る事ができた。
 - ・ICTを活用することで、繰り返し見ることができた。
 - ・映像だと板書に残らないというデメリットを意識し、板書とのバランスをとりながら提示していく。



- ・火事からまちを守る活動について、児童が身近な問題として意識できるように、消防団詰所の位置を示した学区の地図や消防団員である保護者へのインタビュー映像などを用意している。
- ・地域の資料は学校の財産となる。次年度へ引き継いでいくとよい。
- ・単元の初めと終わりに同じ問いを投げかけ、学習問題の解決を図る。

【学習前】

火事起きたときや、火事を防ぐために、だれが、どこで、どのようにしてまちを守っているのだろう。

自分の考え

.....

.....

.....

.....

.....

.....

学習全体をふり返ったり、学習全体を通して自分しただか。かわった場合は、かわったことについて

【学習中】 学習を通して、学習問題を解決するために、「使えそう・必要だ」と思うことを自分の言葉で書きましょう

① 月 日	⑤ 月 日
② 月 日	⑥ 月 日
③ 月 日	⑦ 月 日
④ 月 日	⑧ 月 日

【学習後】

火事起きたときや、火事を防ぐために、だれが、どこで、どのようにしてまちを守っているのだろう。

自分の考え

.....

.....

.....

.....

.....

の考えをくらべたりして、自分の考えはかわりまどう思いますか。

【友だちから】

()より	
()より	
()より	

3年2組

【 】

家庭学習チェックカード

家庭学習をふりかえるチェックカード①

◇「八のつく日」に10日間の家庭学習をふりかえることができるよう、毎日の家庭学習を記録していきましょう

年 組 番 名前 ()

月	家庭学習			家庭学習の時間	学校のチェック
	宿題	10分読書	自主学习		
	やったら、○ わすれたら、×	やったら、○ わすれたら、×	取り組んだ ページ数		
28日				分	
29日				分	
30日				分	
31日				分	
1日				分	
2日				分	
3日				分	
4日				分	
5日				分	
6日				分	
7日				分	

◇◇家庭学習のレベル◇◇

1日の学習時間が、

10分以上～20分未満⇒レベル1
 20分以上～30分未満⇒レベル2
 30分以上～40分未満⇒レベル3
 40分以上～50分未満⇒レベル4
 50分以上～60分未満⇒レベル5
 60分以上～70分未満⇒レベル6
 70分以上～80分未満⇒レベル7
 80分以上～100分未満⇒レベル8
 100分以上～120分未満⇒レベル9
 120分以上⇒レベル10

「八のつく日」 ふりかえり 28日～7日をふりかえろう	全部○だったら→◎ ○が6こ以上→○ ○が5こ以下→×	合計	わたしは、家庭学習を1日平均 分、やりました。	おうちの方の チェック
一言		ページ	わたしの、家庭学習のレベルは、	

毎月の家庭学習の取組を集計し、個人に返す個票

八のつく日チェックカードの記録

年 組 番 _____

◇◇家庭学習のレベル◇◇

1日の学習時間が、

10分以上～20分未満⇒レベル1
 20分以上～30分未満⇒レベル2
 30分以上～40分未満⇒レベル3
 40分以上～50分未満⇒レベル4
 50分以上～60分未満⇒レベル5
 60分以上～70分未満⇒レベル6
 70分以上～80分未満⇒レベル7
 80分以上～100分未満⇒レベル8
 100分以上～120分未満⇒レベル9
 120分以上⇒レベル10

	宿題			10分読書			自主学习 (合計値) ページ数	家庭学習の時間 (平均値)	家庭学習のレベル (平均値)
	◎の数	○の数	×の数	◎の数	○の数	×の数			
9月	2	1	0	1	2	0	16	61.0	6.0
10月	2	1	0	3	0	0	20	58.7	5.3
11月	2	1	0	2	1	0	10	86.7	8.0
12月	0	2	0	2	0	0	16	62.0	6.0
1月	1	1	0	2	0	0	10	61.0	6.0
2月									
3月									

